

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)	◎	－	－	－
	○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・3か月前と比べると、少しは上向きになっている。売上は多少伸びているが、来客数は売上ほどは伸びておらず、客単価は前年比103～105%くらいで、総じて多少良くなってきている。客が新型コロナウイルスに慣れてきているということもあるかもしれない。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・夏物商材とテレビの需要が拡大し、やや良くなっている。
	○	一般レストラン 〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・週末の来客はまだまだ少ないが、平日の少人数での社会人の交流は確実に増えている。
	○	一般レストラン 〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・県独自の時短営業要請等が解除され、徐々に人が街に出始めているものの、日ごとのバラつきの差が大きい。
	○	その他飲食 〔ファーストフード〕（経営者）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたこともあり、3か月前と比べ、当社の売上は上昇している。
	○	都市型ホテル （支配人）	お客様の様子	・東京オリンピック開催決定や緊急事態宣言の解除等により、人の動きが出てきたため、やや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人旅行が増えてきている。ただし、東京オリンピックの状況次第で、少し変わりそうである。
	○	通信会社（局長）	販売量の動き	・広告収入が前年比で60%増となっている。その反面、飲食業では閉店する店舗もみられる。
	○	ゴルフ場（総務担当）	来客数の動き	・来客数が新型コロナウイルス禍前の、前々年の水準に戻ってきている。
	○	設計事務所（所長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、首都圏からの移住を見据えた問合せがきている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種が順調に行われている。何とというか、少し喜びの気分がみられるが、人の動きはまだ少ないようである。
	□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたものの、依然として外出自粛の傾向は変わらず、来客数の増加には至っていない。
	□	スーパー（商品部担当）	単価の動き	・外的要因で売上や来客数は伸びるものの、客単価、買上点数には変化がない。特に、必需品以外の商材の購入は控えている感じがする。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・本来であれば、もう少し来客数が伸びる時期だが、前年に比べて、天候の問題か、あるいは前年は電子マネーの還元キャンペーンがあったことが影響しているのか、来客数が全然増えてこない。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上は97.2%、来客数同96.7%、単価同99.3%となっている。2～3か月前より売上の落ち込みは徐々に少なくなってきた。新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、行事、イベント等が正常化することに期待したい。在宅、リモートワークと、働き方が変化しているが、対応しきれないため、売上増に結び付いていない。
	□	衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・来客数、街なかを歩いている人の姿が、本当に少なくなったままの状態である。
□	乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・自動車販売店だが、来客数がめっきり減っている。新型コロナウイルスのせいもあると思うが、周りがみえないので、客は買うにも買えないし、修理も少し我慢しようということで、来店していない。	

□	乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・当社は営業とサービス部門の両方ある。営業部門の販売は、輸入、国産の新車、中古車の売行きは3か月前と比べて良くはなく、上向きでないことは確かである。車が売れない分、代わりに修理部門がやや持ち直しているような感じで、車検、一般修理関係の入庫が増えている。トータルすると3か月前と変わらない、余り良い状態ではない。
□	住関連専門店 (仕入担当)	来客数の動き	・販促を強化しても、来客数が想定どおりには伸びない。緊急事態宣言明けの新型コロナウイルス感染者数の推移がリバウンドの様相を示していることも、消費が今一歩活発にならない要因と思われる。
□	その他専門店 [靴小売業] (経営者)	来客数の動き	・売上は前年度と前々年度を比較してみている。前年度に比べ来客数は少なく、単価が少し上昇している。前々年度との比較では、依然として本格的な回復のめどが立たない。最近特に、大手メーカーの海外製品の入荷遅れや在庫が欠品しており、納入直前にならないと納期が分からないため、品ぞろえが難しくなっている。
□	一般レストラン (経営者)	それ以外	・他店も回っている業者が、「どこも皆仕入が減っている」と毎回こぼしている。仕入を最小限にしようとするのは景気が良くなる見込みを感じていないからだと思う。
□	その他飲食 [給食・レストラン] (総務)	販売量の動き	・事業所給食は、提供食数は既存取引先では漸減しているが、新規受託でカバーするという例年のパターンで推移している。業者委託へ切替える取引先を今年度も獲得できた結果、横ばいで推移している。レストラン部門は、特に、ゴールデンウィーク後から低調なまま、横ばいで推移している。
□	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・依然として、観光関連事業者と飲食関係は非常に厳しい状況に置かれている。一部の高級路線の宿泊事業者が、業績を維持しているものの、多くの宿泊事業者や飲食店は倒産寸前なのではないか。中途半端にだらだらと国民や事業者に新型コロナウイルスの感染対策の責任を取らせるのではなく、国と政府が覚悟をもって、完全補償付きの通勤通学を含めたロックダウンといった感染対策に踏み切らないと、このような状態は長く続く。
□	都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・宿泊は、緊急事態宣言が解除されたにもかかわらず、依然として首都圏からのビジネス客が減少し、学生のスポーツ大会もほぼキャンセルとなっている。料飲部門は、ディナータイムの集客が低調続きである。
□	旅行代理店 (経営者)	来客数の動き	・当県のまん延防止等重点措置は解除されたものの、首都圏では、新型コロナウイルスの新規感染者が微増傾向のため、夏の旅行申込みがほとんどない。
□	旅行代理店 (所長)	来客数の動き	・首都圏の緊急事態宣言が解除されたものの、引き続きまん延防止等重点措置が適用されている。加えて、都内の新型コロナウイルス感染者数のリバウンドは明らかで、期待していた観光客の動きが見られない。緊急事態宣言の再発出が懸念される。
□	タクシー (経営者)	お客様の様子	・6月は新型コロナウイルスのワクチン接種会場まで、タクシーの無料券が出たため、前年同月比23%の増収である。ただし、タクシー無料券分の売上を差し引くと、前年同月比26%の減収である。
□	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・量販店では、ボーナス前の買い控えやボーナス支給後も例年に比べ来店数、販売数が鈍い状況である。新型コロナウイルス禍でのボーナスの減少や今後の見通しがみえないため、消費も消極的になっている。
□	競輪場 (職員)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍以前の入場者数に戻る気配はなく、特段変化はみられない。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・相変わらず景気は悪く、事務所関係の撤退が目立ってきている。特に、飲食店がかなり悪く、閉店に追い込まれているため、貸店舗の空きも増えている。アパート関係は、ほとんど動きはない。貸店舗で飲食店が入居している建物は、打撃を受けている。

▲	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・男女問わず、衣料品や化粧品といった売上の大きい部門が不振である。外出自粛とマスク着用生活の影響だと思われる。
▲	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・非食品ゾーンの欠落したMD（商品計画）が前年夏より100%補填できない状態が継続している。衣料品の既存ブランドについても展開量の減少が目立っている。
▲	百貨店（店長）	来客数の動き	・当県のまん延防止等重点措置の適用及び解除後の自主規制方針等により、店舗への来客数が5月から現在まで低迷中である。ただし、今月下旬になり、徐々にではあるが回復の兆しがみられる。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年は1人10万円の特別定額給付金が出たため、特需があったが、今年度はその反動で厳しい状況である。売上は前年比65%で、前月比では95%と売上が大きく減ってきている。主要品目の状況は、前年同月比で冷蔵庫60%、映像関連60%、洗濯機60%、スマホ35%と大きく割り込んでいる。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前月同様に、新車、中古車の販売が遞減してきている。その反面、車検等の整備売上は安定している。売上自体は少し下がってはいるが、全体の粗利益は横ばいである。しかし、地域全体の景気動向は確実に低迷している。
▲	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・販売は、1～5月くらいまではおおむね良く伸びていたが、6月になって急に冷え込んでいる。ムードも今一つで、来客数や販売量を合わせても決して良くない。
▲	住関連専門店（店長）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス禍のなかで、ワクチン接種は進んでいるが、まだ景気が上向いている気配はない。飲食業や小売業も、勝ち組と負け組に分かれてしまっている。
▲	その他専門店 〔燃料〕（従業員）	販売量の動き	・受注残の減少が続いている。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・近隣地域の時短営業が解除になり、ボーナスも支給されたにもかかわらず、前月より落ち込んでいる。これは同業の仲間に聞いても同じで、いまだに週休2日にしている店舗もある。特別な日以外は外食せず、自粛慣れしていることなども原因かもしれない。
▲	通信会社（総務担当）	来客数の動き	・高齢層の来店が顕著に減っている。
▲	その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスへの不安感が外出自粛を押し上げ、消費動向にマイナスの影響を与えている。我々自動車整備業界は前年比10%、前々年比では20%のマイナスになる。加えて、半導体不足の追い打ちがどう影響するか。修理パーツの納期遅れが出始めている。
▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・4月の木材不足によるウッドショック以来、不動産の動きが止まっている。後に控える住宅建築の状況が悪過ぎて、販売が鈍化している。
×	商店街（代表者）	お客様の様子	・客との会話で「新型コロナウイルスのワクチン接種の予約は、いつ、どこで接種する、2回目はいつか」などと、ワクチン接種の話題が多く出ている。早期の安心安全な生活を望んでいる様子がうかがえる。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍以前の2019年と比較した売上達成率は、3月が57%に対し、今月は34%である。当社の位置する観光地は首都圏からの来客が多くを占めるため、まん延防止等重点措置が発出され続けている状況では、来客は望めない。また、土産物を買って帰っても周囲に配ることができないので、購入も望めない状況である。
×	コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客が全然来ない。それが悪くなっている理由である。

	×	衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・日を追うごとに来客数が激減している。当店の顧客は年齢層が高いこともあり、今のところ、新型コロナウイルスのワクチンを打つまでは、というような雰囲気を感じている。本当にこの先、店を続けられるのかどうか、相当厳しい状況である。
	×	都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による不景気が継続中で、回復の兆しは見えない。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・相変わらず悪過ぎる。緊急事態宣言中の首都圏からの来客がない。新型コロナウイルスワクチン接種で高齢者の利用客がいても、一時的ですぐになくなる。緊急事態宣言が発出されていない地方でも、夜の街はひっそりとしており、タクシー利用客はかなり減少している。1日の売上は、台数調整をしていても、1万5000円前後に落ちている。
	×	タクシー(役員)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染対策は完全に間違っており、どうにもならない。
	×	通信会社(経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で、売上は確実に半減している。
	×	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことにより、学生の団体は動き出したが、一般来園客が伸びず、厳しい状況が続いている。
	×	美容室(経営者)	来客数の動き	・日本で自動車のバックモニターが標準装備される頃には、中国では無人タクシーが街を行き交っているだろう。経済成長率の低さにみられるように、技術革新は周回遅れの感がある。家計も企業も貯蓄を積み増すが、使うところがないので需要が盛り上がらない。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・自動車や油圧建機の仕事増加に伴い、取引先数社から応援加工依頼がある。また、協力工場である熱処理業者は、どの業者も能力一杯の仕事を抱えており、飛び込みの仕事に対応してもらえない状況となっている。
	◎	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・注文はあるものの、部品が購入できずに止まっている。もしかするとこれから何か月か後にはかなり上向くの可能性もある。
	○	化学工業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・受注可能性の高い新規の引き合いが出始めている。少し良い方向にあると感じている。
	□	窯業・土石製品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響も受けずに、営業している。
	□	金属製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・売上は2018～2019年の7割程度となっている。
	□	輸送用機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・取引先は、10社中8社ぐらいがやや良くなってきている。この先はまだどうなるか分からない。
	□	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・半導体不足が依然として続いており、生産回復への出口が見えない。
	□	建設業(開発担当)	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。新年度がスタートして2か月、今期は公共関係の発注が、県で前年比63%、市町村で前年比79%と、大変厳しい。前年は令和元年秋の大雨災害復旧工事の発注があったが、それが終了したためである。当社の今期決算は前年比10%増の受注があったので、厳しいなかではあるが、一安心である。
	□	輸送業(営業担当)	取引先の様子	・緊急事態宣言下で、インターネット通販向けの物量が増えている。特に、家キャンプ、バーベキュー用品、竹炭等が増えている。また、家具類なども前年並みの輸送量を確保している。しかし、前年は特別定額給付金の支給等により、業績が良かったこともあるので、前年比では5%減だが、予定の物量は確保している。
	□	広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・前年3月からずっと広告出稿状況は悪いままである。
□	司法書士	受注量や販売量の動き	・こんなときではあるが、ほぼ同じくらいの売上で推移している。	

	□	社会保険労務士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響を受けている業種は、相変わらず厳しいままである。
	□	その他サービス業 [情報サービス] (経営者)	取引先の様子	・商談や販売の件数、売上等に特段変化はみられない。客の情報化投資が動き出し、引き合いも増加しつつある。
	▲	電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、やや悪くなっている。
	▲	不動産業 (管理担当)	受注価格や販売価格の動き	・経費削減のため契約内容を見直し、値下げしてほしいという取引先が多く、売上、利益共に減少傾向にある。
	×	経営コンサルタント	それ以外	・街なかや観光地、商業施設等への入出が止まった感があり、地域企業の動きも全体的に緩慢で地域経済に活力はなく、非常に落ち込んでいる。新型コロナウイルス禍で、個別企業の経営業績の格差が、更に極端に拡大している。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (管理担当)	求人数の動き	・サービス業の派遣求人が増加しているため、やや良くなっている。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・製造業への派遣求人が増加している。新型コロナウイルスの影響が大きかった飲食業や小売業も、前年より増加している。
	□	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・住宅関連では改装や外壁等の外装塗装については動きがみられたが、新築物件は止まっている。工場製造部門は食品の稼働がかなり活発である。小売関係では、スーパー等で、生鮮食料品、野菜等の動きが良く、客足が多くみられている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・製造業の求人は回復してきたが、事務系求人数は増えていない。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・有効求人倍率は1.10倍と前月に比べ0.10ポイント下回ったが、14か月連続で下回っていた前年同月比は同率となっている。有効求人数は前年同月比8.1%増と22か月ぶりに増加に転じ、有効求職者も同7.9%増と10か月連続で増加している。
	□	学校 [専門学校] (副校長)	求職者数の動き	・求人の動きは業種によって異なり、例年以上の求人がきているところもあれば、新型コロナウイルスの影響を受けて採用数を減らしている企業もある。
	▲	*	*	*
	×	*	*	*